HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	北海道大学埋蔵文化財調査センターニュースレター　第30号
Issue Date	2018-12
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/73344
Type	bulletin
File Information	newsletter30.pdf

Instructions for use

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

第30号　2018年12月

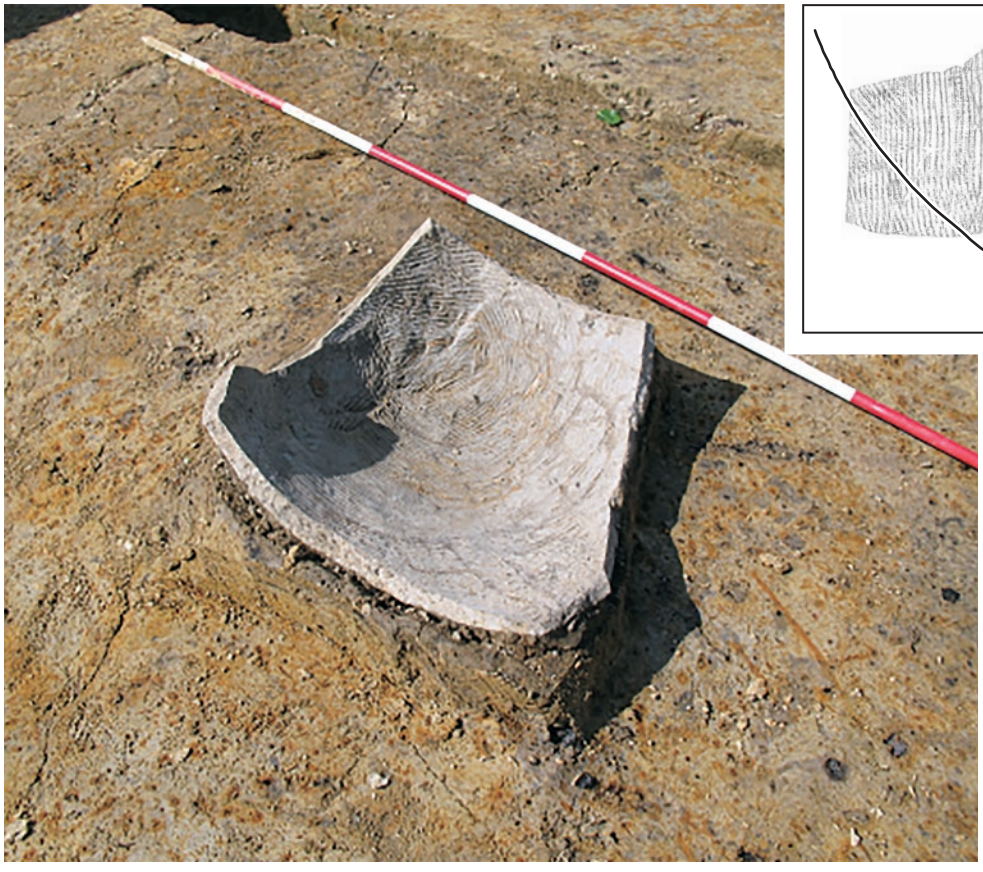
北海道大学 Hokkaido University
Archaeological Research Center News Letter

埋蔵文化財調査センター ニュースレター

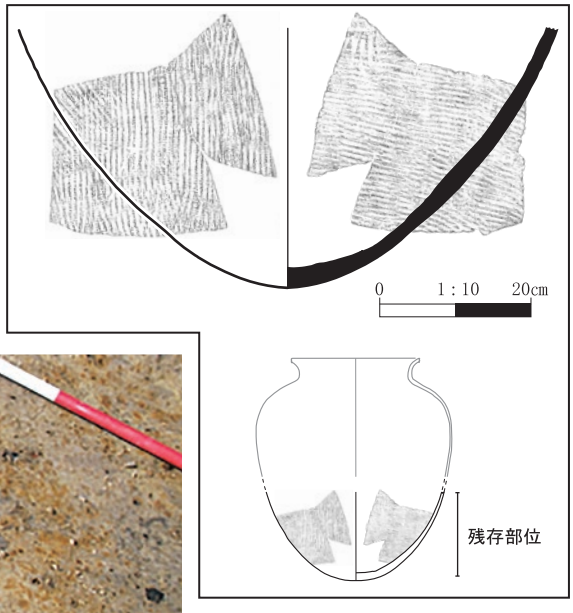
特集　須恵器

須恵器とは、窯を用いて、1000℃以上の高温で焼き上げられた硬質の土器のことをいいます。北海道大学構内ではこれまで擦文文化（7 世紀後葉～13 世紀前葉）の 14 の地点から、78 個体の須恵器が出土（2頁参照）しており、甕、長頸壺、坏などの器種が確認されています。いずれの地点も地元で製作されていたと考えられる擦文土器に混じって、少数の須恵器が出土しています。

北海道には当時、これらの須恵器を生産できるような窯は存在していませんでした。そのため北海道の須恵器は、いずれも東北地方において生産されたものが持ち運ばれてきたと考えられています。7 世紀以降の東北地方における須恵器の生産は、律令体制の拡張と密接に結びついており、擦文文化の遺跡から出土している須恵器は、北海道で暮らしていた人々と東北地方との関係を紐解く重要な鍵になるものとみられています。北海道で出土している須恵器がどの地域で生産され、どのような経緯で入手されたものであるのかを解明していくことは、大変重要な課題となるのです。



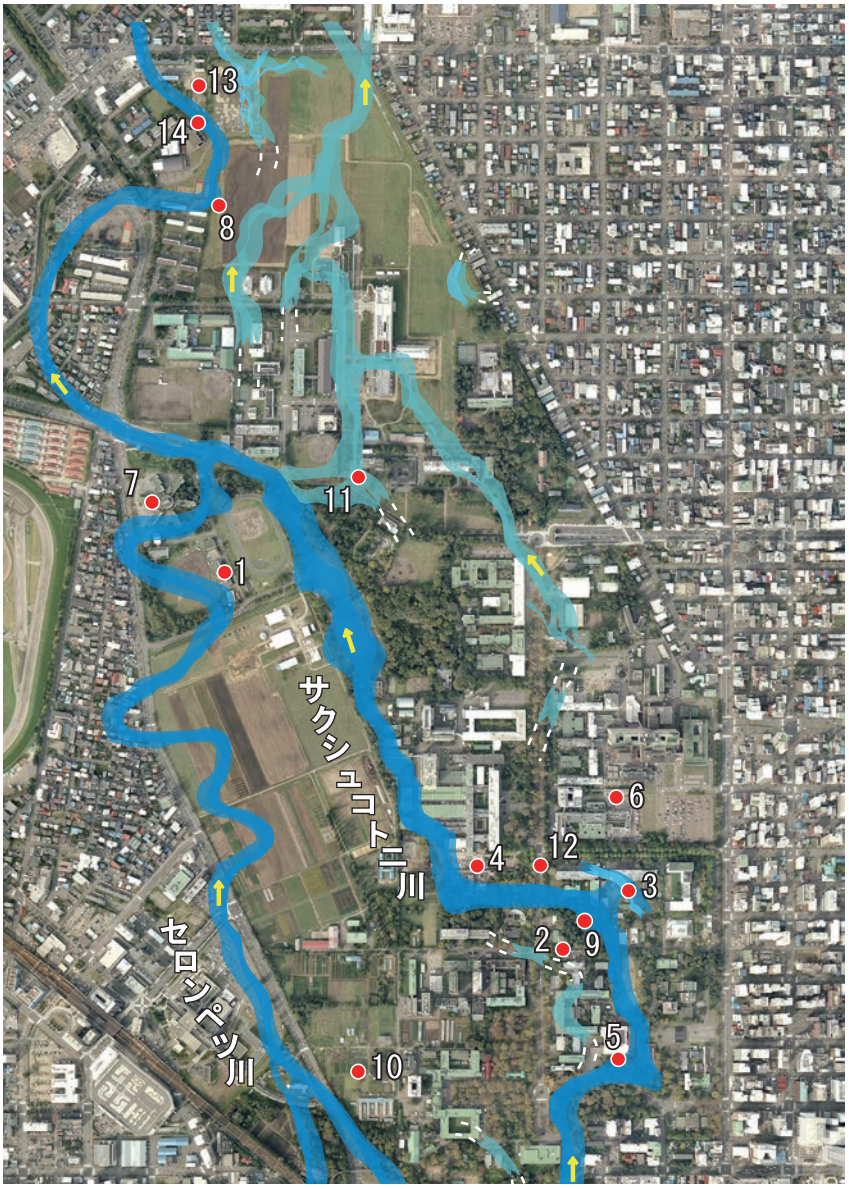
▲ K39遺跡獣医学研究科大動物研究施設地点の竪穴住居址内で発見された五所川原産と推定される須恵器（甕）の出土状況

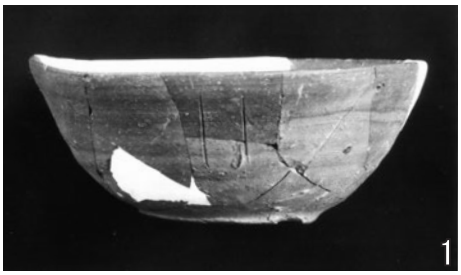


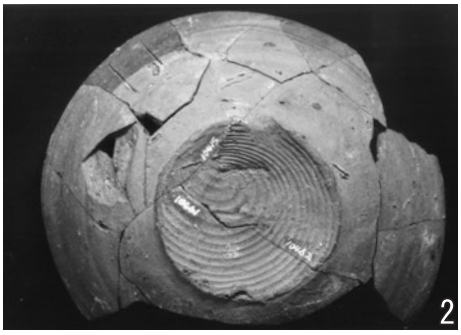
▲ 本資料の拓本・実測図（上）と残存部位の模式図（下）

本資料は擦文文化中期の竪穴住居址から発見された大形の甕で、拓本は胴部のみを示しています。高温で還元焼成（酸素の供給が遮断された状態で燃焼が進行）され、内外面には叩き目（3頁参照）が残されています。

須恵器の出土地点







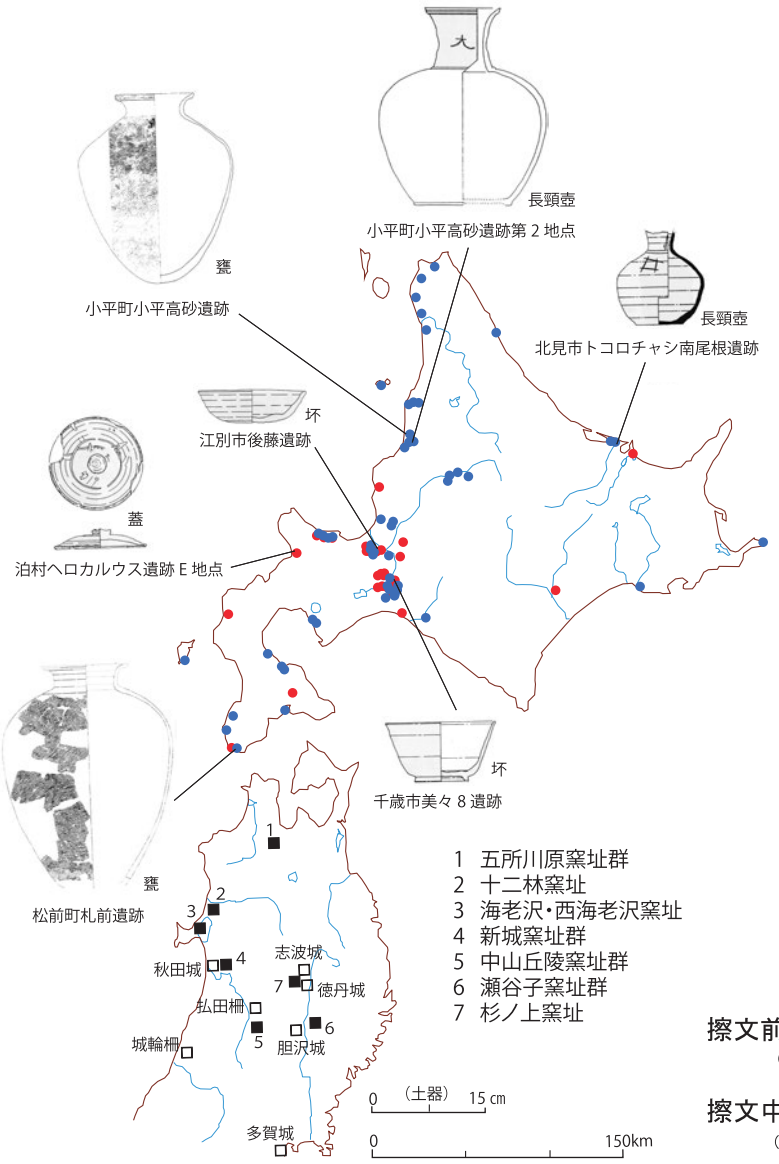
▲　恵迪寮地点から出土した須恵器

1:炭化物マウンドから出土した坏、2:1の底面、
3:炭化物集中52から出土した、頸部から上が欠損している長頸壺

▼ 北海道大学構内の遺跡から須恵器が出土している地点

番号	地点名称	出土位置	器種（個体数）	時期	報告書
1	K39遺跡　サークル会館地点	HP02	坏（3）	擦文前期	『北大構内の遺跡1』
2	K39遺跡　共同溝調査センター南地点	HP01	坏（1）	擦文前期	『北大構内の遺跡2』
3	K39遺跡　薬学部研究棟地点	包含層	坏（6）	擦文前期	『北大構内の遺跡ⅩⅥ』
4	K39遺跡　工学部共用実験研究棟地点	包含層	坏（1）	擦文前期	『K39遺跡工学部共用実験研究棟地点発掘調査報告書』
5	K39遺跡　附属図書館本館再生整備地点	HP01	坏（1）	擦文前期	『北大構内の遺跡ⅩⅨ』
6	K39遺跡　医学部陽子線研究施設地点	周溝	甕（1）	擦文前期	『北大構内の遺跡ⅩⅩ』
7	K39遺跡　恵迪寮地点	HP02	長頸壺（1）	擦文中期	『サクシュコトニ川遺跡』
		HP05	坏（1）・長頸壺(1)	擦文中期	
		炭化物マウンド	坏（2）	擦文中期	
		焼土・炭化物遺構	坏（7）	擦文中期	
		炭化物集中52	長頸壺（1）	擦文中期	
		遺構外	坏（1）・長頸壺（27）・甕（9）	擦文中期	
8	K435遺跡　馬術部馬道フェンス地点	HP01	長頸壺（1）	擦文中期	『北大構内の遺跡ⅩⅢ』
9	K39遺跡　弓道場地点	HP01	坏（1）	擦文中期	『北大構内の遺跡ⅩⅤ』
		包含層	坏（1）・長頸壺（2）・甕（1）	擦文中期	
10	K39遺跡　農学部実験実習棟地点	HP03	坏（1）	擦文中期	『北大構内の遺跡ⅩⅩⅡ』
11	K39遺跡　獣医学研究科大動物実験研究施設地点	HP01	甕（1）	擦文中期	『北大構内の遺跡ⅩⅩⅣ』
12	K39遺跡　応用電気研究所前地点	HP01	甕（1）	擦文後期	『北大構内の遺跡1』
13	K435遺跡　南新川国際交流会館地点	包含層	坏（1）・長頸壺（2）	擦文後期	『北大構内の遺跡ⅩⅧ』
14	K435遺跡　南新川国際交流会館外溝地点	包含層	坏（2）・甕（1）	擦文後期	『北大構内の遺跡ⅩⅨ』

東北地方における須恵器の生産と北海道への流入

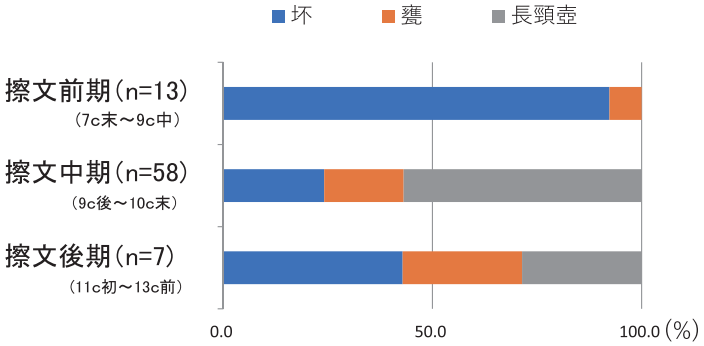


▲須恵器生産に関連する東北地方の遺跡および須恵器が出土している北海道の擦文文化遺跡

7 世紀以降、律令体制の東北地方北部への拡大に伴い、出羽や陸奥では払田柵や秋田城、志波城や胆沢城などの周辺で須恵器の生産が本格的に始まりました。これらの地域の窯業生産は、官衙や寺院への供給を主たる目的としたもので、坏や高台坏などの食膳具の生産割合が高かったことが知られています（中澤寛将「五所川原産須恵器の生産と北海道への流入」『中世東アジアの周縁世界』同成社）。

北海道中央部の石狩低地帯の遺跡からこの時期の須恵器が数多く出土していますが、北海道南西部の日本海沿いの遺跡からも点々と出土することがわかっており、この地域が石狩低地帯と東北地方を結ぶルートとなっていた可能性があります。秋田城などへの朝貢に伴って、須恵器が擦文文化を担っていた人々にもたらされたことが推定されています。

9 世紀末葉以降は、官的性格の強い窯業生産が後退し、津軽平野の五所川原などで須恵器生産が開始されるようになります。食膳具とともに、甕や長頸壺などの貯蔵具も多く生産されていました。五所川原で生産された須恵器は、全道の多くの擦文文化の遺跡から発見されており、入手の機会や物流のルートが前段階からは変化したことが推定できます。



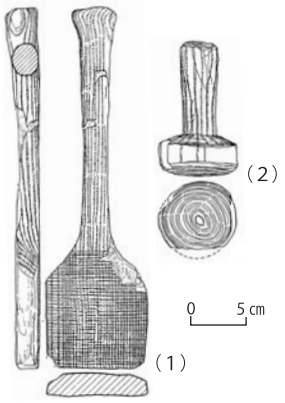
▲北大構内の擦文文化の遺跡から出土した須恵器の器種組成の変化

須恵器の生産地の時間的推移に伴って、北海道から出土する須恵器の器種の構成にも変化が認められます。北海道大学構内の遺跡（各地点）で出土している須恵器も、擦文前期は坏が多かったのが、中期以降は甕や長頸壺が多くみられるようになります。

五所川原須恵器窯址群

青森県五所川原に所在する須恵器生産のための窯址群は、9 世紀末に操業を開始し、10 世紀後葉には終了していました。現在までに 39 基の窯址が確認されています。いずれも傾斜地に溝を掘り込み、その上に粘土でドーム状の天井を作る半地下式の構造を示していました。北海道での五所川原産須恵器の出土器種は、壺・甕類が多く認められます。交易で穀物や液体物を運搬するための容器として用いられたものでしょうか。

須恵器の叩き目

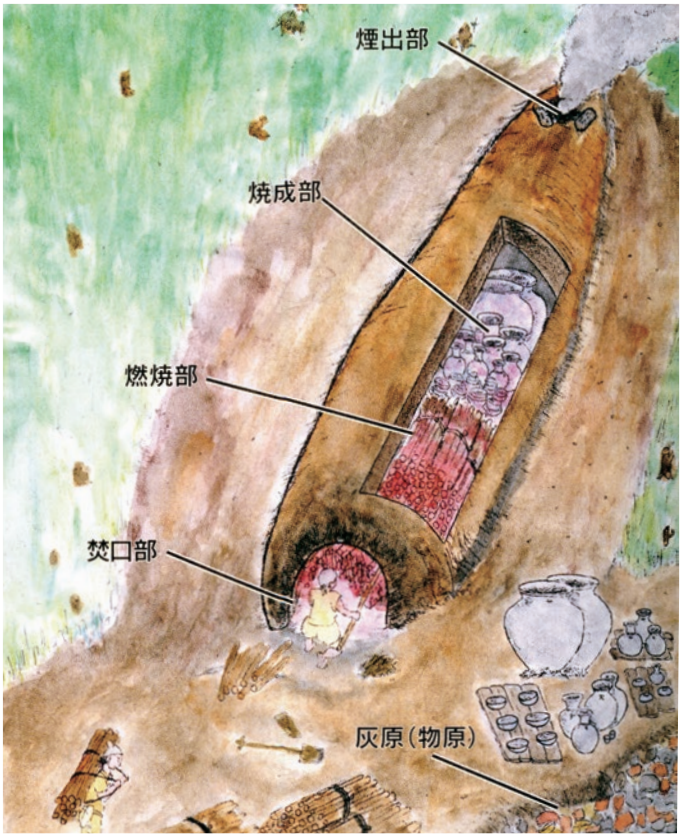


▲叩き板（1）と当て具（2）（九州大学構内遺跡出土、横山浩一 2003『古代技術史攷』）

須恵器の器面には叩き目がしばしば観察されます。叩き目とは、土器を作る際にヘラ状の木製具で器壁を叩き締めることによって生じた圧痕のことです。叩き締めは、片手に持った当て具を土器の内面に当てがい、他方の手に持った叩き具で土器の外面を叩くことによってなされます。叩き締めには、粘土のつなぎ目の接着を強化し、器壁の厚みが平均化されるという効果がありました。叩き締めの道具が木製であれば、木目や人工的に刻まれた凹凸が、土器の面に転写されます。

須恵器窯の構造と焼成

須恵器を焼成するための窯は、一般的に傾斜地に設けられており、薪材を投入する焚口部、薪を燃やす燃焼部、須恵器を焼く焼成部、煙を排出させる煙出部から成り立っています。五所川原窯址群では、窯体の長さは6～9m程の規模がありました。復元的な実験の結果によれば、3～4日間ほどの時間をかけて徐々に窯内の温度を上昇させると、窯内壁・天井部の溶解による剥がれ・落下が起きずに窯内の最高温度を1000度以上にすることができ、その時点で焚口部と煙出部を閉鎖すると、酸素が供給されない高温域での還元焼成が進み、発色のよい須恵器が安定して出来上がるとされます。燃料の木材は、5日間の焼成であればおよそ4～5tに相当するのではないかと指摘されています（藤原学　2007「須恵器窯跡の復元研究」『古代文化』58-Ⅳ）。

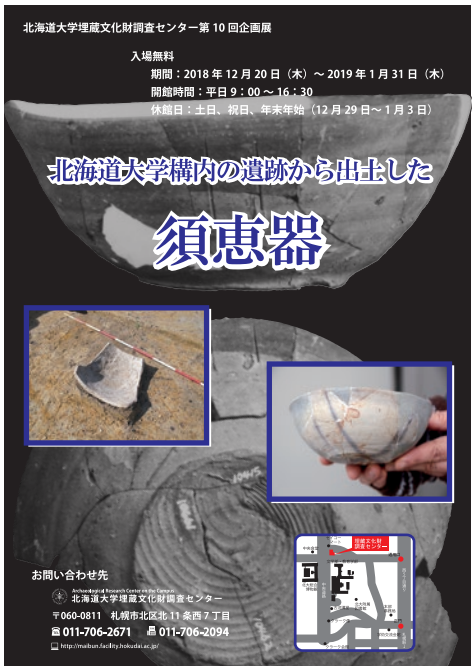


▲ 須恵器窯での焼成の様子（『青森県史資料編　考古３』）

第 20回遺跡トレイルウォークの開催（報告）

第20回遺跡トレイルウォークが2018年10月28日に開催されました。当日は雨のなかでの開催となりましたが、紅葉を見ながらの遺跡見学となりました。今回のテーマは「湧水と河川資源利用の後跡をたどる」で、北海道大学の学術交流会館を出発し、清華亭までをまわるコースとなりました。湧水の名残やそこから流れる小河川沿いの遺跡を見学していきました。

第 10回企画展開催のおしらせ



今回の特集テーマと連動する企画展が当センターの展示室で開催されます。

編　集　後　記

須恵器が発見されている遺跡をプロットしていくことで、北海道から東北地方にまたがる擦文文化の物流網が浮かび上がってくることになりました。12月20日から開催の企画展にもご期待下さい。　（高倉）

北海道大学埋蔵文化財調査センターニュースレター　第30号
平成30（2018）年12月20日発行
発行：北海道大学埋蔵文化財調査センター
〒060-0811　札幌市北区北11条西7丁目
電話：011-706-2671　FAX：011-706-2094
e-mail：hokudaimaibun@gmail.com
URL　：maibun.facility.hokudai.ac.jp/
印刷：柏楊印刷株式会社